

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790200129		
法人名	社会福祉法人 宝樹園		
事業所名	グループホーム あやうた		
所在地	香川県丸亀市綾歌町栗熊東783番地		
自己評価作成日	平成23年11月4日	評価結果市町受理日	初受審

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成23年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然環境に恵まれ、木造平屋造りで広々としたリビングと中庭を作り、ゆったりとした解放感のある生活の場の提供を目指している。また同建物内にデイサービス事業をしており、地域の利用者と自然な交流が図れるよう自由に行き来している。入浴設備は身体的状況が重度化されても対応できる。利用者の生活は、個々の生活習慣・リズムに沿って支援をしており、必要以上の集団援助はしていない。一般的な普通の生活を目指しており、毎日入浴(夜間入浴)による清潔と、利用者によっては毎日の外出・散歩を日課に取り入れている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>平成23年4月に開設し、代表者・管理者・職員が一丸となって、サービスに日々努力している。地域の方々に理解協力していただくために、近隣の方々との交流も力を入れている。利用者の日々の生活は、集団でなく個々の普段の生活を尊重した支援をして、家庭的援助を心がけている。職員・管理者は、会議・研修や委員会等を発足させ、全員で「笑顔と優しさのあるケア」を共有し実践している。また、利用者の思いや希望は、心から耳を傾け把握に努めている。利用者は笑顔で、趣味や会話を楽しみながら穏やかに過ごしているのが伝わってくる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人開設来の理念であり社員証にも明記し、意識づけるとともに、日々の取り組みに活かしている。	法人全体の理念「優しさ笑顔でお世話します」を事業所の理念としている。職員の名札にも記されており、管理者や職員の意識づけをし、共有を図っている。委員会でチェックしながら実践につなげている。	利用者が地域の中で、その人らしく暮らしていける運営やサービスを、今後、さらに事業所が提供するうえで、大切なことや原点を関係者で話し合い、わかりやすく文章化したものを示し、実践につなげられるように期待している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事・季節行事は必ず参加している。毎日の散歩により、近隣とも自然と触れ合う機会が増えている。また近所のスーパーでの買い物・外食など、毎日一人からでも何らかのかたちで、地域交流を図っている。	散歩の際に挨拶を交わしたり、地域の行事・祭り・文化祭・幼稚園・小学生の訪問・夕涼み会等、地域の人々と触れ合う機会があるよう積極的に取り組んでいる。現在、自治会の加入に向けて努力している。	地域の一員として受け入れられ、近隣の方がいつでも立ち寄り、地域と事業所が相互に助け合う関係が日常的に行われることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催日に講演会・介護教室などを開き、地域・近隣に参加を積極的に呼びかけ、専門技術・知識の啓蒙を図ると同時に、地域の中のホーム理解を得るとともに、相談援助を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度会議を開催し、ホームの現状を伝える中で、適切なアドバイス・意見をもらい、その議事録は全職員・利用者家族に公開し、サービスに活かしている。	2か月ごとに、消防署・警察署・家族・市職員・婦人会会長・民生委員・職員等で構成し開催している。取り組み報告や講演・相談援助などを行っている。意見が少ない時もあり、より事業所理解やサービスの状況の理解をいただけるよう話にスライドを用いるなどの工夫をし、サービス向上になる努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会・市主催の連絡協議会に、積極的に参加し、相談・事例検討などを行い、指導・意見をホーム運営に活かすなど、協力関係を結んでいる。また、ホーム内で生じた報告義務は必ず、市担当者に報告・相談している。	市の連絡協議会に参加し、運営報告・事例検討などを具体的に伝え、相談・アドバイスもらっている。また近くに行った時は、市役所に立ち寄り、関係を築き、連携を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を中心に、定期的な勉強会・事例検討を行い、職員間の意識統一を図り、身体拘束をしない生活支援の提供に努めている。また離床センサーを導入し、利用者のリスク軽減に努めている。	現在、身体拘束はない。身体拘束防止委員会を中心となり勉強会や事例検討を行い、身体拘束のないケアを共有したり意識づけをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に定期的な勉強会・事例検討を行い、職員の意識統一を図り、利用者の精神的・肉体的な虐待がないように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、職員の理解はできている。しかし現在、該当者がおらず、必要性はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に重要事項説明・契約書により、細部にわたっての説明と理解を求めながら契約し、改訂時には、その都度説明と同意を得ている。また疑問があるときには、納得がもらえるような説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で、利用者・職員と和やかな雰囲気の中で意見を出してもらったり、苦情箱の設置と面会時などの家族の話の中から、小さな意見を聞き取り、改善できるよう努めている。日々の関わりのなかで、利用者の言葉を大切に聴くようにしている。	運営推進会議・家族会や面会・電話時や意見箱などで意見をもらっている。また、利用者・家族との会話の中で思いをくみ取り、積極的に聴く努力をしている。出された意見は、申し送りノート・ミーティングで共有し、サービスに活かし反映させる取り組みをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回代表者を中心に運営会議を開催し、職員の意見の反映と問題事項の解決を図っている。出席ができない職員に関しては、事前の意見徴収と、会議後の結果を書類・口頭にて伝えている。	運営会議で、代表者と職員が意見や提案を話し合っている。また、ミーティング時や個々に、その都度伝えることもできるコミュニケーションも取れている。意見は、できることからサービスに反映されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課導入、管理者から、その結果と職員一人ひとりの考課を、向上にむけて話している。また個人評価も行い、同僚による客観評価で個人の向上を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画の中に、OFF-JT(職場外研修)を積極的に取り入れ、スキルアップを図っている。また研修委員会によりOJT(職場内研修)を、法人全体で積極的にすすめている。資格養成も特別研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームに研修及び見学交流を行っている。交流職員より、気づきを利用者支援に活かせるよう報告会を開き、情報の共有をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全ての環境が変化し、精神的に不穏になりやすいために、職員とのラポール(信頼関係)が築けるよう、個々の精神状況に合わせた関わりと、訴え、思いを傾聴し、ゆっくりと対応しながら精神の安定が図られるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・契約より家族の思いを理解し、利用者支援に努め、更に家族会・面会時を通じて関係づくりを深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設独自のアセスメント表及び利用者・家族からより密な情報を得て、確認しながら担当・計画作成者と話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に時間を共有し生活する家族として、その人らしい自律・自立支援のため、できないことに対する支援を行っている。また、個人の趣味や得意なものを生活の中に活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪しやすい環境を目指している。また、面会・外出・外泊等家族との絆を大切にしている。施設内行事には、積極的に参加していただけるよう働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月たよりを出し、利用者の生活状況・生活予定を知らせている。また気軽に来訪できる環境づくりに努めている。	利用者の希望するところへ一人からでも外出支援をしている。計画をしたところへ行ったり、隣のデイサービスの人たちの交流や行きつけの理髪店で散髪したり、生け花の知人が尋ねてくる等もある。また、お便りでお知らせして行事の案内などを行い、気軽に訪問してもらえる努力もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂での席の配置、時間などの配慮や利用者間関係をみながら、職員による関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は定期的に訪問、また家族に連絡し、状態の確認をしている。退居後も家族の意向を大切に、相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報・日々の支援の中でくみとったり、意思表示困難な方は、表情からくみ取ったり、家族の思いをくみとりケアプランを作成している。	日常会話や行動から思いをくみ取ったり、家族から聞いたりして把握に努めている。また、カンファレンスを2週間ごとに開き、一人ひとりの生活習慣を尊重して、本人の気持ちになり話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	話を十分聞いて、アセスメントを共有している。施設独自のアセスメントも活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り(朝・夕)で情報交換したり、日々の生活の中から職員間で情報を交換して、一人ひとりの現状は把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の意向や職員全員(モニタリング)で意見交換し、気づき・変化などを反映した現状に即した計画を作成している。	利用者・家族の意見を聞いたり、受け持ちスタッフを中心に職員の意見を聞き、話し合って作成している。利用者一人ひとりの生活を配慮し、変化に応じ、その都度対応した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日課が誰にでも分かりやすいようにシートを作成し、モニタリングに活かし、プラン表も利用者情報と一読できるシートを作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化に沿った支援ができるよう常に話し合って対応している。一日一度は、外出できるように業務調整をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる訪問活動・地域学童との交流・地域行事の参加を積極的に進めている。また利用者のニーズに則した外出活動・デイサービス利用者との交流で、地域の人たちと会話したり共に活動する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の意向により、かかりつけ医を決め、往診・受診している。	利用者・家族の希望する医療機関で、適切に受診できるよう支援をしている。協力医療機関と職員の関係もできていて安心して受診されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師を中心に、利用者の異変を早期発見し、医師との連携にて、早く適切な対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に病院に出かけ、医師に状況確認したり、利用者・家族と面会して状況把握に努めたり、医療ソーシャルワーカーと随時連絡をとり、よい関係づくりを維持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護職員を中心に、全職員共通の認識をもっている。密な主治医・家族への連絡を欠かさず、常に介護職員と話し合いをもって対応している。重度化については、医療関係者と情報を共有し、職員全員で協力して対応している。	指針を基にして、入居時から利用者・家族と話し合っている。変化に応じ、その都度、確認しながら意向に添える方針の統一を図っている。マニュアル整備・安全委員会・研修会などで方針を共有し、チームで看取りが支援できるよう、取り組みを整えていく努力をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備、安全委員会を設置し、月1回検討している。利用者急変に関しては、看護師の指導を定期研修としている。ヒヤリハット・事故報告書等も活用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年最低2回、避難訓練を実施している。地域にも協力体制をお願いしている。	災害訓練を2回実施し、職員はいざというとき確実にできるための誘導について、問題点を把握している。同系列事業所からも訓練参加している。マニュアル・実施記録・連絡網などもきちんと整備されている。	常に個々に危機感を持って、話し合いやシュミレーションを繰り返しながら、今後、住民の理解と協力が得られるよう、更に努力されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応に注意している。研修・自己評価表にて客観評価して対応に活かしている。	新人研修・職員研修・言葉づかい運営委員会・マニュアルなどや、事業所独自の自己評価に客観的評価を取り入れ試みるなど、言葉づかいや対応に活かしている。注意や指導が必要な時は、その都度、個々に伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付けの言葉ではなく、利用者の気持ちと言えるような言葉をかけて導くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人がその人らしい生活ができるよう、個々に合った生活プランを日課としている。		

グループホームあやうた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者好みを大切に服装・髪型・毛染め・行きつけの美容院に行くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から片付けまで、個々の能力に応じた自立支援をしている。食事は職員と同じテーブルで楽しく会話しながら、美味しく食べていただけるようにしている。	栄養士の献立のもと、利用者と職員で、調理や盛り付け・後始末をしている。おかわりも自由で、職員も共に食べ、楽しい話題で雰囲気づくりにも配慮している。時々、栄養士が食事の希望を聞き、一緒に食べることもある。また、希望で外食も取り入れ柔軟に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立をたて、個々に応じた栄養バランス・形態を提供している。量も水分ともに毎食チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・うがいを実施している。入れ歯管理もしている。必要な人には歯科往診を利用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じた排泄パターンを把握して、トイレで気持ちよく排泄できるように努めている。オムツに頼らないよう努力し、リハビリパンツや布パンツへの変更ができるよう努力している。	一人ひとりの機能に応じ介助している。チェック表を利用し、さりげなく声かけて、トイレ誘導支援している。昼間はトイレでの排泄や自立支援に心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らない排便を目指し、水分チェックと排便チェックから、排便管理している。メニューに野菜を多く取り入れたり、運動で体を動かすようにしたり、腹部マッサージをしたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴することを基本とし、利用者の心身状況により夜間入浴を実施している。	事業所の一方的なものにならないよう、夜間入浴も含めて入浴したいときに行っている。嫌がる人へも、清拭・足浴なども含め安心して入浴ができるように支援している。	

グループホームあやうた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動により、夜間安眠できるよう配慮している。また安心して、いつでもどこでも眠れるようリビングソファを設置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員が基本対応している。症状の変化については、看護職員から医師への連絡で、処方の変更をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ごとの趣味・特技を活かした日課を組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じ、朝夕の散歩を日課に取り入れている。また、利用者の希望に応じた場所への外出を行っている。地域行事には参加している。	希望者で、気分転換やリハビリを兼ねたドライブや買い物・外食・行事参加・散歩や習慣になっているところへ外出している。車椅子の方も積極的に外出できるよう心がけている。事業所の都合で、強制したり行き先を固定せず、希望・天気・季節・体調など、そのときの状況に応じ、楽しめるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、事業所預りとしているが、外出時には、利用者自らサイフをもって支払いできるように取り組んでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、手紙・電話のやり取りを行っている。		

グループホームあやうた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした空間のリビングから中庭に出られるようになっており、解放感のある環境がある。またアニマルセラピーとして室内犬をかっており、落ち着けて家庭的な花の溢れる環境づくりに努めている。	共用生活空間は明るく、生活感・季節感を取り入れ、利用者全員の月ごとの写真や作品・季節感の花や飾り付けがされている。また、中庭に季節の花や野菜が育てられていて、天気のいいときはそこで過ごしたり、ガーデニングをしたりしている。そして、訓練された室内犬が利用者のマスコットとして癒されている等、家庭的場所となるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・中庭と一人ひとりがリラックスできる場所を見つけて、ゆっくりと過ごせる環境がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れているものを持ち込んでもらっている。(家族の写真や、これまでの思い出の品など)	家族と相談しながら、家庭で使用していた物品や家族の写真が持ち込まれている。それぞれの個性的な部屋で、その人らしく過ごされる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境設備をしている。利用者の状況に合わせた目印を付けている。		